

道玄だより

第7号

「建築装飾」

あらためて「建築装飾」を考えてみると、表現された建築の美術的で瑣末な問題よりも、いかに壮大な無駄を企図しているかに興味をひかれる。壮大な無駄とは、非日常や不合理な世界をどの様にもっともらしく魅せているかを言う。現代は合理性を追求する社会であるが、その様な中において純粋に無駄を追求することは、人間らしい営みである。

要するに、人間の心を開放し、無駄を有益であると感じられる錯覚が「建築装飾」の魅力である。

澤野道玄



三峯神社

東長寺五重塔内部荘厳工事

(福岡市博多区)



平成21年より平成23年まで、真言宗の別格本山東長寺様の開創1200年記念の五重塔建立事業にあたりまして、松井建設(株)九州支店様の下で外部丹塗り塗装工事および内部の荘厳工事を施工させていただきました。

今回、五重塔内部の絵画を日本画家の鳥山玲先生が描かれました。私どもは鳥山先生の絵画を引き立てるとともに、平安時代の建造物装飾を代表する奥州平泉金色堂を参考に内部荘厳を提案し施工させていただきました。

弘法大師のお言葉に「信心は荘厳より出ず」という言葉があります。御住職のお言葉への想いに触れ、この一大事業に関わらせていただいたことに社員一同大変感謝いたしております。

(製作部 信正靖雄)



五重塔内部 鳥山先生デザインの根巻金物は、打出彫(うちだしぼり)という技法で作製。貫の透かし金物の下は緑青絵具を塗装しました。透かし部分から緑青を覗かせ美しく見せる工夫で、中尊寺金色堂にも見られます。



左：釘隠しの唄金具
唄金具は東長寺様の紋をモチーフに作製させていただきました。



螺鈿装飾部



地覆 真言宗で大切にされている五色の彩色を施しました。



石清水八幡宮

葺戸修理

(京都府八幡市)

平成21年から3年間の事業として携わらせていただき、漆塗建具の補修が終了し全て取り付きました。

葺戸(しとみど)とは、平安時代に現れた建具の一つで、上一枚だけを跳ね上げる半葺(はじとみ)と、上下に分かれず開口部いっぱい大きさになる一枚葺戸があり、石清水八幡宮廻廊の葺戸は後者になります。

板を格子(屋外側)と舞良戸(室内側)で挟み、両端の尖った合い釘(鉄釘)でこれら三点を継ぎ合わせたものが葺戸となりますのですが、合い釘は格子の交差部分すべてに打ち込まれています。表面には八双(はっそう)と呼ばれる鉄金物が取り付けられ、葺戸をいっそう丈夫なものにしており重圧感を覚えます。実際に持ってみると見た目以上の重さを感じますが、それは鉄釘と八双金物が使用されているからであろうと思われます。



葺戸は整列した格子が美しい。白色部分には「胡粉」が使用されています。

この葺戸をあえて漆で塗る。今回間近で目にする機会を得て漆の“もったり”とした質感と艶加減に気づかされました。黒漆という装飾が、重たい葺戸の良さを引き立てているように感じられます。

(製作部 余江岳央)

装飾技術

肉合研出蒔絵 (ししあいときだしまきえ)



男山蒔絵硯箱
出典：『硯箱の美』より

「肉合研出蒔絵」とは、漆器上に立体感を出す技法で、高蒔絵の技法と研出蒔絵の技法を併用したものであり菱合(ひしあい)ともいわれます。蒔絵の中でも最も豪華で、且つ複雑な工程を経て完成するため、蒔絵の技法が集結した最高の技術とも言われています。

肉合研出蒔絵は、高蒔絵(文様部分を高く盛り上げる技法)の部分と背景の面を同時に漆で塗り、高上げ部分と背景が同一となるよう同時に文様を研ぎ出します。そのため、手順をよく考えなければなりません。また、高低差のある面に沿って文様を研ぎ出すため、最も高度な技術が感じられます。

古くは、室町時代の「男山蒔絵硯箱」の遠山の文様にその応用が見られます。
(製作部 李尚娥)

美術装飾品のお手入れ方法

美術工芸品を劣化させる原因の一つにカビがあります。カビは菌糸を伸ばして基質に根を張り、そこから栄養を取っています。その際、酵素を分泌して基質を分解するため、木地や紙を傷めてしまいます。また、色素を生産するので変色の原因にもなります。

◆カビが繁殖しにくい環境づくり

カビは温度20℃、湿度80%を越えると激しく繁殖します。また、ゴミや埃もカビの栄養となるので、定期的に通気し、掃除を行うことがまず第一の予防になります。

◆殺菌

薬局で市販されている消毒用エタノールで、保存箱などについた脂や埃、ヤニなどを拭き取ります。アルコールは70%~80%に希釈されたものがカビに浸透しやすく適しています。消毒用として市販されているものはあらかじめ希釈されているため工芸品のお手入れに適しています。

美術工芸品そのものに手を触れて埃などを拭き取ることが難しい場合は、保存場所をアルコールなどで殺菌しておくだけでも効果があります。
(製作部 高井みいる)

お一人参加大歓迎!

歩いて触れる京の物語 現地集合現地解散歩く旅 (要予約)



京の小路から路地へ



一見観光地ではない町並みのあちこちに、文化遺産が散りばめられている京都。千年前は貴族の邸宅街…京都御自慢の路面電車が駆け抜けた百年前…路々の軌跡に、時の姿を重ね歩く奥深い旅。フィナーレは古都の暮らしを受継ぐ秦家住宅で、静やかな感動が待っている。

日時：毎日8時~&10時半~催行
価格：3,000円(秦家住宅見学料込み)

京都御苑 エコロジーウォーク



京都御苑…その静かで壮大な憩いの場に、命の共生という京の誇りがある。御所が狐狸の棲家となった明治維新、人々の再起をかけた挑戦が始まった。往事から今に受継がれる和のエコロジー精神を巡るウォーキング。春夏秋冬の癒しを浴びて。

日時：毎日7時半~&10時半~催行
価格：2,000円

祇園異界迷路



祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり…京都東山一帯に広がる平家物語の世界。誰も一度は訪れたことのある観光メッカ祇園。実は、あの世とこの世の分かれ道だった…。地域に語り継がれる不思議な伝説とともに、京都情緒の小路を歩く。

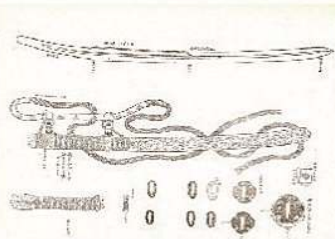
日時：毎日13時半~ 催行
価格：2,000円(拝観料別途)

私の好きな文化財

私の好きな文化財は「小烏丸」という国立文化財機構に保管されている刀です。

一般的な「日本刀」とは異なり、切っ先から刀身の半分以上が両刃であるという独特の造りをしています。これを「鋒両刃造」(きっさきもろはづくり)と呼びますが、この造りは「小烏造(こがらすづくり)」とも称されるようになりました。

刃の根元部分から中心にかけて緩やかなカーブを描き、切っ先に向かうに連れて真っ直ぐ伸びていきます。刀身の半分以上が両刃となっていることから、日本刀独特の「断ち切る」ことのみならず「刺突」にも適した革命的な刀です。



(営業部 貝谷紀章)

参考文献：『集古十種』より

時代別装飾

~江戸初期~



江戸初期の慶安四年(1651年)に創建された上野東照宮の拝殿向拝臺股(かえるまた)彫刻に、「松に鷹」の装飾があります。松は「松樹千年翠」の言葉に代表されるように長寿の証であり、鷹は狙った獲物を逃さないことから大願成就の象徴とされるため、大変演技の良い装飾と言えます。また鷹は家康公の象徴とも言われており、東照宮において重要な位置に配置されています。
(製作部 鈴木宗行)

お申込み・お問合せは圓塾(えんじゅく)へ

〒615-8205 京都市西京区松室中溝町30-11
TEL 075-382-1238 / FAX 075-382-1239
http://www.enjyuku.info
圓塾代表 澤野ともえ



~圓塾は、文化財活用を推進する(株)さわの道女の姉妹事業です。~

◇発行 株式会社さわの道女 企画、編集：田淵

〒604-8232
京都市中京区錦小路通油小路東入る空也町491番地
TEL 075-254-3885 / FAX 075-254-3886
http://www.sawanodogen.com (道女だよりはホームページにも掲載しております)